

優勝を喜ぶ平戸イーグルス



2019 専修大学カップ 平戸イーグルス 初優勝

(横浜市戸塚区代表)

地域とともに

社会貢献活動
スポーツを通じて神奈川県内の子どものための健全育成を支援する「2019専修大学カップ 神奈川県学童軟式野球選手権大会」(神奈川県野球連盟共催)が8月2日から7日まで、境川遊水地公園少年野球場(横浜市)などで開催され、県内各地の代表54チームが熱戦を繰り広げた。7日、横浜スタジアムで行われた決勝戦で瀬谷ライダース(横浜市瀬谷区代表)を11-6で破った平戸イーグルス(横浜市戸塚区代表)が初優勝を遂げ、14代目王者に輝いた。

佐々木大会会長から優勝旗が授与された



表彰式・閉会式で優勝チームに大会会長の佐々木重人学長から賞状、優勝旗、優勝カップが、神奈川県少年野球連盟会長の鈴木一誠大会副会長から賞状、優勝盾が贈られた。優秀選手賞は平戸イーグルスの持田和希選手(6年生)、敢闘賞は瀬谷ライダースの梶本大翔主将(6年生)が選ばれた。



準優勝の瀬谷ライダース

決勝戦	瀬谷ライダース	0	1	1	2	2	0	0	6
	平戸イーグルス	0	0	1	2	3	5	X	11



柳川寛樹さん

司会を務めた柳川さん、渡辺さん 11年大会出場「専大との縁に」

開会式で司会を担当した柳川寛樹さん(法2)、閉会式で司会を担当した渡辺裕貴さん(文2)は、ともに本学就職部が主催するアナウンサー講座の受講生で、小学6年生だった2011年に専大カップに出場した。2人は「当時のパンフレットや

tvkの特別番組の映像は大切に保存している。専大入学を決めた時には縁を感じた」と言う。柳川さんは開成イーグルス(足柄上郡)でプレー。「4年生の時に先輩が専大カップで戦う姿を見た時から、仲間とともに目標にしていた大会だった」と思いを語る。開会式では、入場行進に合わせて出場チーム名を読み上げ、「自分が出場した時を思い出して、楽しくアナウンスすることができた。報道に興味があり、伝える側として野球の魅力を発信していきたい」と話す。

念のメダルが授与された。優勝チームは、8月20日、tvkの昼のワイド番組「猫のひたいほどワイド」に出演し喜びを語った。また大会の様子は25日、tvkで2時間50分の特別番組として放送された。

ます。選手の皆さんは今後も大好きな野球に励んでください」とあいさつし、大会関係者やチームの指導者、ご父母・保護者に謝意を述べた。



渡辺裕貴さん

渡辺さんにとって専大カップは「高校卒業まで野球を続けた原点。有鹿バッファローズ(海老名市)に所属し、専大カップでは途中出場でライトを守った。また、横浜ベイスターズ(当時)のファンで、「開会式で横浜スタジアムを行進した時はとてもうれしかった」と当時を振り返る。専大では国際交流会SHIPに所属。「将来は英語力を生かした通訳など、野球に関わる仕事がしたい」と笑顔を見せる。

区防災貢献者 SKVを表彰

認識が高い個人や団体を表彰し、その取り組み内容を紹介する制度。本年度は5団体が選ばれた。SKVは防災と地域貢献を柱に活動する学生ボランティア組織。中田さんは「自分たちの身は自分たちで守ることができ、団体として活動している。今後もメンバーとして」と。8月24日には神保町三丁目の子どもの縁日活動にも力を入れている。約30人が参加。会場設営から流しそうめんやゲームなど全ての企画に携わり、地域の人々と交流した。



「いつ起きてもおかしくない災害に備えたい」と話す中田さん



子ども縁日で流しそうめんを担当したSKVのメンバー

文化の違い



緑地帯

中国において南北の差異はかなりある。私は南の出身だが、この夏は家族の結婚式のために北部に滞在した。そこで文化の違いを観察した。まずは食べ物について。結婚式の場、北部では当日の朝にまず家族が集まって一緒に餃子を食べる。花嫁を迎えに行く時も、新郎新婦がまず一緒に餃子を食べ、夫婦として結ばれる。南部では、結婚式の時に甘い団子「湯丸」を食べる習慣がある。子どもの時、村民と一緒に全村人分の団子を

祝儀を包んだ赤い封筒、紅包(ホンバオ)だ。北部ではこの「敬茶」の儀式が行われ、代わりには披露宴の際に何度もお酒を乾杯して盛り上げる。感謝する対象に感謝の言葉を書いて、お酒を捧げる「敬酒」のほうが北部では重要だ。異文化に出合った際、柔軟に対応するのが重要だ。鍵はコミュニケーション力と異質なものに対する受容性にある。皆さんはこれからたくさんの人に出会うだろう。異文化をすんなり受け止める器を持つようになるとうれしい。私はそのため(学生部委員・傅凱儀)